

薬価 DF 令和編

2021

薬価データファイル令和編

はじめに

薬価 DF 令和編（以下「令和編」と略す）は 2006 年（平成 18 年）に発売した薬価データファイル 2004 ～ 2016（以下「薬価 2016」と略す）及び 2020 年の薬価 DF 平成総覧（以下「平成総覧」と略す）の後継版である。薬価 2016 では 2016 年 10 月現在の薬価基準収載 16,240 品目について、同品目を 2004 年 4 月まで遡って記載し、平成総覧では平成元年から平成 31 年 4 月までに薬価基準に収載された全品目約 58,000 品目の平成年間の薬価推移を示しているのに対し、令和編は平成 30 年の改正を始点に約 26,000 品目の薬価推移を示している。

薬価基準は従来約 2 年ごとの全面改正後に、新薬収載、後発品収載があり、更に全面改正により、薬価及び品目数が整理される経過を辿ってきた。

ところが、2016 年に「国民皆保険の持続可能性」と「イノベーションの推進」を両立し、国民が恩恵を受ける「国民負担の軽減」と「医療の質の向上」を実現する観点から定められた、「薬価制度の抜本改革」に基づいて毎年改正の方針が決定され、2021 年（令和 3）には価格乖離の大きな品目について薬価改定を行う初めての中間年改正が実施された。

このように平成 30 年の改正以降、消費税改正対策を含め、毎年改正が続いているため、「令和編」をまとめることとした。

編集方法は前述の著作を踏襲しており、内用薬、注射薬、外用薬及び歯科用医薬品毎に薬効分類順に、一般名、規格、販売名、企業名を記し、2018（平成 30）年以降の薬価を改定時及びその後の追加収載を経時的に記載した。

平成総覧から本編記載品目へはコード番号により連結できるので、平成初期から通覧することも可能である。

医薬品業界のみならず、関連産業、学術研究者ほかの方々の利用を期待している。

令和 3 年 4 月

編者

参考資料

1 官報：国立印刷局

2 薬価基準収載品目リストについて：厚生労働省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2021/04/tp20210401-01.html>

3 医薬品マスター：社会保険診療報酬支払基金

https://www.ssk.or.jp/seikyushiharai/tensuhyo/kihonmasta/kihonmasta_04.html

本書の利用について

本書は前記の参考資料を基に作成した。

主として参考資料 2 及び 3 の薬価基準電子データ（医薬品マスターファイル）等を基に、収載品目を整理し、必要に応じ参考資料 1 で確認したものである。

1 収載区分

内用薬、注射薬、外用薬及び歯科用薬剤の別にまとめた。

2 表の各項目について

(1) 番号

内用薬、注射薬、外用薬及び歯科用薬剤の別の通し番号

(2) 薬価基準収載医薬品コード

(3) 成分名

(4) 規格

(5) 品名

(6) メーカー名

(2) ～ (6) は参考資料 2 に準拠している。

(7) 区分

先発品及び後発品及び局方品、一般名収載の区分を示した。先、準先（準先発）、後、★（後発品であって先発品と同額又は薬価が高いもの）、局（局方品）、一般（一般名収載収載）と略記した。

(8) ND

新薬収載時に中央社会保険医療協議会（中医協）に提出された算定根拠を示すもの。

欄内の番号をクリックすることによりリンクする。

(9) 収載年月・収載薬価

品目が新規に収載された時の年月日および収載時の薬価である。

新薬については全て、それ以外のものは 2018 年以降の収載品目について示している。

(10) 薬価

原則として薬価全面改正時の価格を示し、追加の欄は追加収載を示している。

(11) HScode

薬価 DF 平成総覧との連結コードである。HS を除くと平成総覧の内用薬、注射薬、外用薬及び歯科用薬剤の表に記載の番号に一致する。

◎内用薬、外用薬及び歯科用医薬品は 10 銭単位、注射剤は円単位である。

◎原薬の薬価は 1 g、1 m L 単位のもの、10 g、10 m L 単位のもので混在しているので、留意が必要である。

なお、表は初出の成分欄を青色、初出の規格欄をオレンジ色としている。

文字の赤字は先発品又は準先発品、青字は後発品である。